

英語科学習指導案

指導者 小田島 篤史

- 1 日時 平成22年11月2日(火) 6校時
- 2 学級 3年1組 男子7名、女子13名、計20名 第3校舎1階3年1組教室
習熟度別少人数指導(Aコース)

- 3 主題 Unit 5 Cell Phones – For or Against?
(東京書籍 New Horizon English Course Book3)

4 主題について

(1) 題材について

本題材は、主に携帯電話の使用についての議論が主眼とされている。Starting Out では、発明された当時の電話機や、創成期の電話局の様子が扱われている。Dialog では、携帯電話の使用に関する議論のきっかけとなる出来事が、マイクと母の会話の中から読み取ることができる。Reading for Communication においては、インターネットの掲示板上で、様々な議論が展開される。中学生なりに、携帯電話の使用に関する問題意識を抱かせる内容となっている。

言語材料においては、現在分詞及び過去分詞による後置修飾、本時に扱う間接疑問文が初出となっている。

(2) 生徒について

習熟度別Aコース(上位)の生徒たちは、英語の学習に対する関心は高い。女子生徒の中には、家庭学習を進んで行う生徒が多く、学力の定着は良好である。一方、男子の中には、「話すこと」に対して意欲的な反面、集中力が持続できなかつたり、学習への動機付けが思うようにいかないため、学力の定着が図りにくい傾向にある者もいる。特に「書くこと」への苦手意識が強いことから、授業では音声と文字とを結びつけた指導に配慮している。

今年度は、習熟度別の少人数指導を実施しているが、両方のグループで音読と暗唱、そして書く活動へのつながりを持たせた学習を行っている。定期テスト等では、語順整序問題や英作文で少しずつ効果が表れ始めている。

(3) 指導について

「Aコース」の生徒たちは、まとまった英文を暗唱する活動に慣れている。基本文が、どの部分に使われているのかを意識させれば、一文一文のつながりを理解することもできる。

本時は間接疑問文を扱うが、はじめに疑問詞を用いた直接疑問文の復習を行い、間接疑問文へ変換した際の、語順や動詞の変化について気付かせたい。さらに、直接疑問文からの変換をドリルさせることにより、文型の定着を図りたい。そして、実際の使用場面に留意させながら対話を行わせることにより、「よく考え、伝え合う活動」の指導効果をねらいたい。

5 指導と評価の計画（別紙）

6 本時について

（1） 本時の目標

間接疑問文の形・意味・用法を理解でき、適切に話したり、書いたりできる。

（2） 本時の評価規準

表現の能力	間接疑問文を用いて、相手とのやりとりをしている。
理解の能力	言語活動の際に、相手が言っていることを理解している。
言語や文化についての知識・理解	間接疑問文の意味と語順を理解している。

7 指導の構想

（1） 指導構想

本時は、「イ 話すこと」の目標のうち、「(オ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること」を主な指導の内容としている。まず、前段階として、ペアとの協同による英文づくりの作業を行い、その後、まとまった複数の英文を聞き手に伝える活動を組むことを考えた。

I know～(I don't know～)+間接疑問を用いて、身近な話題について、適切なテーマの下で話すことができる技能を育て、本校の研究主題にある「よく考え、伝え合う活動」につなげていきたい。

（2） よく考え、伝え合う活動について

従来行ってきた言語活動は、主に2人組のペアで、モデル文を利用した対話を行ったり、あるテーマについて原稿を作り、少人数のグループ内でプレゼンテーションするといった、練習段階の活動に終始することが多かった。

今回は、Pattern Practice の段階から、お互いの意向を「伝える」活動を心がけさせ、対話練習へスムーズに活動をつなげたい。また、展開後段での「振り返り」で「書くこと」の定着を図り、個々の学習状況を把握し、適切に評価することに努めたい。

8. 本時の展開

段 階	過 程	学 習 活 動	よく考え、伝え合う活動を通してねらいにせまるための手だて	
			評 価 の 視 点 ＜方法＞	指 導 上 の 留 意 点
導 入 づ く 10 分	課 題 入 づ く り	1 あいさつ 2 Warm-Up WH 疑問文を活用したペア活動を行う。 3 学習課題の設定 間接疑問文を使用した英文を聞いて、既習事項とのつながりを考える。	3 [知識・理解] 間接疑問文の意味と語順を理解している。＜観察＞	2 本時の学習に活かされるよう、十分な練習をさせる。 3 【紙板書】 間接疑問文の仕組みを示す。
		間接疑問文を使って、相手との対話を続けよう		
展 開 追 求 30 分	課 題 追 求	4 Pattern Practice ペアで先攻と後攻を決め、先攻が出した問いに対して間接疑問文で応じる。 5 活動 Pattern Practice で使った英文を用いて、ペアでスキットを作る。 6 発表 ペア同士で対話を発表し合う。	4 [関心・意欲・態度] できるだけ多く英文の練習をしようとしている。 ＜机間指導＞ 5 [表現] 間接疑問文を用いて、相手とのやりとりをしている。 ＜机間指導＞ 6 [理解] 言語活動で、相手の言っていることを理解している。 ＜観察＞	4-1 【フラッシュカード】を利用して、ペアワークを行わせる。 4-2 <u>先攻と後攻のかけあい</u> で活動させる。 5-1 【絵カード】で対話のテーマを示す。 5-2 <u>ペア両者に、自分たちで考えた英文を活用してスキットを完成させる。</u>
		7 振り返り 本時の学習内容を振り返る。 8 あいさつ		7-1 板書を利用して、自分なりに学習内容をまとめさせる。 7-2 活動で話した英文をなるべく多く書かせる。